

2024 年 1 月 31 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

発達障害の疑いを抱える未就学児の家族に対する保健師の関わり

Involvement of Public Health Nurses with Families of Preschool  
Children Suspected of Having Developmental Disorders

22MN008

加藤佑実

## 論文要旨

### 目的

本研究では、発達障害の疑いを抱える未就学児を持つ家族に対し、保健師の対象となる家族への関わりを記述し、その関わりに至った意図に着目して考察することで、保健師が果たす役割を明らかにすることが目的である。

### 研究方法

市区町村に常勤しており、且つ母子保健事業に携わった経験が3年あり、発達障害の疑いを抱える未就学児とその家族に対する支援を行った経験のある行政保健師3名に半構造化インタビューを行い、分析は発達障害の疑いを抱える未就学児の家族に対する保健師の関わりについての語りを抽出してコードを作成し、共通の意味に基づいたサブカテゴリーを抽出した。抽出されたサブカテゴリーについて、関連性に基づいてカテゴリーを作成した。

### 結果

発達障害の疑いを抱える未就学児を持つ家族への保健師の関わりは【様々な場面から発達障害の疑いを抱える子どもを把握する】【家族と関係を構築することで家族が感じている思いを引き出す】【家族が子どもの発達障害の疑いに気づけるように促す】【家族に子どもとの関わり方を伝える】【家族から拒否されないように関わる】【支援の目を切らさないようにする】、【家族の特性に合わせて対応を工夫する】【母親も含めた家族全体に対してアプローチをする】【家族が関わっている多職種・他機関と連携を図る】の9つのカテゴリーで構成されていた。

### 結論

保健師は発達障害の疑いを抱える未就学児を持つ家族を把握した時点から、関係構築や家族の思いを引き出すことを始めとして、家族が子どもの発達障害の疑いに気づけるように促すことや、関わり方を伝えることなど家族の特性に合わせて、切れ目ない支援を提供しており、それらには今後の継続的な支援を見据えて、段階を踏んで関係を構築することや、家族自身が発達障害の疑いに気づいてほしいといった意図を含んだ関わりを行っていることが推測された。また、家族が子どもの発達障害の疑いに気づき子どもの特性に応じた関わり方を知ることや、必要なタイミングで専門機関に繋がることにより、子ども自身も特性に合った環境で教育を受ける機会となり学校でのつまずきに繋がりにくくなると推測される。その為にも、保健師は家族が発達障害の疑いがあることに気づき、子どもの特性を理解して関わる事が出来るようにサポートすることを始めとして、子どもと家族が子育てに孤立感や負担感を感じないように支え、見守ることが重要な役割であると示唆された。